

新規・継続等	新規	分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号	14	事業名	急傾斜地崩壊対策等		
市町村名	南木曽町		ふりがな 箇所名	おくしみず 奥志水		事業年度 (完了年度は見込み)	年度～ 年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	重力式擁壁工 L=580m 吹付法棒工A=3,000㎡ ブロック積工 L=82m				H22年度末事業 進捗率	0%		
	H23年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	0%		
	H23年度実施内容	-				用地補償費ベース	0%		
	年度	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残			
事業概要	事業費計(千円)	297,300	0	0	0	297,300			
	国庫支出金	141,218	0	0	0	141,218			
	財源内訳 その他	14,865	0	0	0	14,865			
	県債	127,000	0	0	0	127,000			
	一般財源	14,218	0	0	0	14,218			
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			部 ランク 評点	政策評価課 ランク 評点		
	必要性 (20)	保全対象人家戸数	20戸以上	10～19戸	10戸未満	B	3	3	
		保全対象公共施設数	2箇所以上	1箇所	なし		6	B	6
		保全対象に援護者施設があるか	重要施設あり	一般施設あり	なし		0	0	
		保全対象に避難所、避難経路があるか	あり	なし			1	1	
	小計						10	10	
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去10年に1回以上	災害履歴地	なし	A	8	8	
		交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小		2	A	2
		防災計画上の位置づけ	位置づけあり	位置づけなし			2	2	
	小計						12	12	
効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C3.0以上	B/C1.0以上3.0未満	B/C1.0未満	A	14	A	14	
	早期発現度	5年未満	5年～10年未満	10年以上		6	6		
	小計							20	20
緊急性 (25)	斜面の高さ	30m以上	10m以上30m未満	5m以上10m未満	A	5	A	5	
	斜面平均勾配	45°以上	40°以上45°未満	30°以上40°未満		4		4	
	地質状況	崩積土、火山砕屑物、強風化岩	段丘堆積物	軟岩・その他		4		4	
	斜面形状(オーバーハング、遷急線、谷地形、凸地形)	あり	なし			3		3	
	植生の状況	不良	普通	良好		2		2	
	保全対象の位置	がけ下にある	がけ上にある			5		5	
小計						23	23		
計画 熟度 (20)	地元の協力	用地等の協力が得られる	用地等の協力が概ね得られる	協力が現時点では得られていない	A	7	A	7	
	地域からの要望	高い	それほど高くない			10		10	
	小計								17
費用対効果(B/C)		3.59	評価の合計			A	82	A	82
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	高さ30mのがけ下に28件の保全対象があり、特に広瀬公民館一は地域防災計画上の避難場所として位置づけられている。平成12年7月の豪雨時に公民館裏斜面で小崩落が発生、法面には不安定な転石が見られるため、地元から対策の要望が上がっている。							
	地域からの要望経緯	平成18年6月、広瀬地域振興協議会より南木曽役場へ要望あり 南木曽町より県へ要望がけ対策の要望がなされる。							
	事業説明等の経緯	平成19年8月土砂災害防止法の指定にかかわる説明会で、広瀬地区住民から要望あり。 平成21年3月5日地元説明会：早期着工の要望あり。							
	環境・景観への配慮項目	重力式擁壁工の施工にあたっては、必要最小限の掘削に努め、既存植生の保護に努めるとともに在来種を中心とした緑化を図り、環境及び景観に配慮する予定。							
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。							
特記事項	地元は対策に対しての関心が高いため、避難体制の整備および施設の維持管理について、今後の地元説明会で積極的な関与を促したい。(地域の防災活動の状況、維持管理の協力体制について記入)								
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他				
部意見	地元の要望もあるため事業の必要性はあるが、近年の斜面の変状が少ないため、ほかの危険箇所の着手を優先して経過観察とし、H23新規箇所としては見送りたい。			政策評価課 意見	重要性は認められる。				